

長野試験地

公益財団法人日本植物調節剤研究協会
長野試験地
主任 丸山 俊城

はじめに

植調長野試験地が所在する長野県安曇野市(図-1)は、長野県のほぼ中央部に位置し、平成17年に旧5町村が合併し、面積311km²、人口は96,000人をかかえる安曇野市となった。それまでは南安曇郡豊科町と呼ばれる地域であった。本試験地の東には犀川(信濃川の支流)が日本海に向かって流れ、西に中央自動車道長野線が南北に走っている。標高は約570m、長野県中央部に広がる松本盆地の北部(梓川、烏川、黒沢川、中房川などによる複合扇状地)に位置する。

ちなみに安曇野の振り仮名はあづみのものであり、英称はAZUMINOと表記する。

試験地の概要

1) 地理的特徴

気候は中央高地式気候に分類され、年平均気温は約11℃と穏やかであるが、気温の変化は大きく夏は最高35℃を超える一方、冬は氷点下20℃まで下がり、寒暖の年較差は50℃を上回る。全般に湿度が低く、真夏でもしのぎやすい気候である。冬期間は晴天日が多く、日照時間が年間2,100

時間と長いうえ、年間降水量は1,100mm前後で、国内でも雨の少ない地域にあたる。

2) アクセス

JR中央本線松本駅から北に8.5km、JR大糸線豊科駅から東に約4.2km、JR篠ノ井線田沢駅から南西に約2.2km、長野道安曇野ICから南東に1.4kmと交通の便は良好である。

3) 周辺の名跡や観光スポット

本試験地の真西には常念山脈の山々の山容が四季を通して楽しめる。常念山脈は北から順に有明山、東天井岳、横通岳、常念岳、蝶ヶ岳、大滝山などが連なるが、中でも常念岳は標高2,857mで山体すべてが長野県に属し、安曇野市と松本市にまたがる常念山脈の主峰で日本百名山のひとつである。ピラミッド型のその端正な山容は一目瞭然とすぐ見つけられ安曇野のシンボルである。なお、北アルプスを代表する穂高岳や槍ヶ岳といった山々は前衛の常念山脈に隠れ、試験地周辺からは見るできない。

試験地から10km圏内には多くの名跡や観光スポットが存在しているのでその幾つかを紹介する。

松本城(図-2)は現存する五重六階の天守の中で日本最古の国宝の城で黒と白のコントラストが北アルプスの山に映えて見事な景観を楽しむ。松本城の200m北には近代学校建



図-1 長野県地図
●長野試験地



図-2 松本城と北アルプス



図-3 旧開智学校



図-4 松本市美術館と草間彌生の作品



図-5 碓山美術館



図-6 新屋東圃場



図-7 巾下圃場

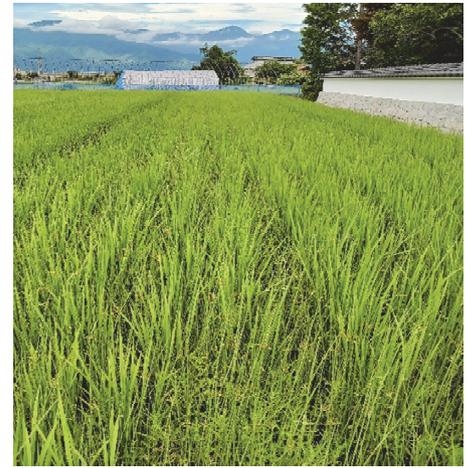


図-8 シズイ増殖中の新屋北圃場

築としては初めて国宝に指定された旧開智学校（図-3）がある。この建築物は明治9年に完成し昭和39年まで小学校校舎として使われていたもので洋風とも和風ともいえない不思議な建築は「擬洋風建築」と呼ばれている。

美術館も多く、松本市内の中心部に、前衛芸術家、草間彌生の作品が常設展示されている松本市美術館（図-4）、安曇野市穂高には萩原碌山の代表作「北条虎彦像」や「女」（いずれも重要文化財指定）など多くの作品がところせましと展示されている碓山美術館（図-5）がある。また、安曇野市に隣接する松川村には、絵本作家いわさきちひろと世界の絵本作家の作品が収蔵された安曇野ちひろ美術館があり、多くの観光客が訪れる。

安曇野市穂高には日本最大規模とうたわれている大王わさび農園があり、年間を通して多くの人々が訪れる。

沿革

植調長野試験地は上田市中条の閉場に伴い、2020年4月から現在地の安曇野市豊科高家とよしなたきべに移り開設するに至った。

圃場

水稲用除草剤適用性試験A-1SとA-1の普通枠(2×2.5m)、水口処理、中規模試験に新屋東圃場(22a)(図-6)と巾下圃場(18.5a)(図-7)の2筆を当てている。またA-4難防除雑草区分のシズイ試験を2021年度から長野県農業試験場原村試験地内のシズイ評価専用圃場で行っている。本試験は長野県農業試験場と植調協会の共同研究との位置づけで双方の試験結果は県の防除指針に反映されている。さらに2023年4月に長野県農業試験場原村試験地のシズイ塊茎混入土

表-1 圃場特性

圃場名	面積 (a)	土性	pH	腐植含量 (%)	減水深 (cm)
巾下	18.5	沖積埴壤土	6.2	2.4	≦ 0.5
新屋東	22	沖積埴壤土	6.0	2.3	≦ 0.7
新屋北	7	沖積埴壤土	6.0	2.6	≦ 0.7
原村シズイ	8	黒ボク埴壤土	5.4	18.5	≦ 1.0



図-9 巾下圃場より望む北アルプス連峰，中央が常念岳

壤約 1,500kgを長野試験地内の新屋北圃場（7a）（図-8）に客土した後，シズイの育成をし，2024年度から A-4 シズイの試験を開始した。

各試験圃場の土性等を表-1に記す。

自然発生の雑草は巾下圃場と新屋東圃場では主にノビエ，ミゾハコベ，アゼナ，キカシグサ，コナギ，ホタルイ，ホソバヒメミソハギである。ノビエ，ホタルイは共に 1 m²当り 200 本以上の発生量が毎年確認されている。2024 年度の新屋北圃場のシズイ発生量は 1 m²あたり 660 本であった。

圃場の灌漑用水は犀川の支流である奈良井川より取水している拾ヶ堰（2016年に世界かんがい施設遺産登録）より取り入れている。

おわりに

昨年，開設 5 年を過ぎ適用性試験を実施するための必要設備もほぼ整い，また，昨年からは始めたシズイ圃場も試験に

十分こたえられる水準の発生量が確認された。

今後は，当協会の事業に関する試験・研究はもちろん，長野県の研究機関や普及関係の方々および地元の農家の方々との交流を深め，信頼される試験地として精進して行く所存である。

最後に，巾下圃場から望む北アルプス常念岳（図-9）をご覧いただきたい。

引用文献

- ・国宝松本城・松本城をより楽しむ公式ホームページ：<https://atsumoto-castle.jp>
- ・旧開智学校-松本市公式ホームページ：<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/134/3770.html>
- ・松本市美術館公式ホームページ：<https://matsumoto-artmuse.jp/>
- ・公式 | 見る遊ぶ安曇野市観光協会：<https://azumino-e-tabi.net/sightseeinglist>